

# 16 新たな品種による飼料用米安定生産の取組み ～飼料用多収系統「中国217号」の実証～

■ 観音寺市大野原町・三豊市三野町・豊中町 ■

(西讃農業改良普及センター 眞鍋雄二、岸本 靖、川上 清、宮崎 勝  
秋山修一、○眞鍋大明、加藤大貴)

## ●対象の概要

西讃管内の飼料用米栽培面積は37haと増加傾向にあり、早生品種「タカナリ」、中生品種「ホシアオバ」の専用品種を中心に栽培されている。

飼料用米専用品種は、多収で倒伏に強い品種が多いものの、近年の天候不順等の影響により、思ったような収量が確保できないほか、倒伏も見られた。

今回の実証に取り組んだ飼料用米専用品種「中国217号」は、近畿中国四国農業研究センターにおいて、短稈で耐倒伏性が高く、収量の多い品種として開発された飼料用の多収専用品種である。

## ●課題を取り上げた理由

管内では、平成26年度の台風などの天候不順によって、主要品種の「ホシアオバ」に倒伏や紋枯れ病による被害が発生したため、「ホシアオバ」に替わる品種を求める声が栽培農家からあった。

そこで普及センターでは、「中国217号」の品種特性に着目して、平成26年度に品種育成機関である近畿中国四国農業研究センターへの視察研修を関係機関や栽培・実需者とともに実施し、その結果を参考に平成27年度に実証ほを設置して、栽培特性や収量の調査を行った。

## ●普及活動の経過

### 1 飼料用米のワンストップ説明会の開催

飼料用米の地域内取引(区分管理)やWCSなどの栽培面積が増える中、新規需要米取組計画書の提出や販売に関する契約の締結など必要な事項、栽培上の留意点について、複数の機関への提出資料などがあるため、新規需要米説明会を開催し、ワンストップでの指導になるよう心掛けた。



新規需要米(ワンストップ)説明会(6月1日)

### 2 先進地研修の実施

管内では土地利用型大規模農家を中心に地域内の養鶏業者とのマッチングにより飼料用米の生産拡大の取組みが進んでいる。

そこで、この取組みの一貫として、集落営農組合と養鶏業者が連携を図っている事例を調査するため、岡山県への先進地視察を行った。

### 3 新品種「中国217号」の実証ほ設置

主要品種の「ホシアオバ」に替わる品種を検討するため、「中国217号」の実証ほ4か所を設置し「ホシアオバ」との比較により、品種特性の把握と籾収量、飼料成分の確認に努めたほか、巡回指導や個別指導等により、安定生産への支援を行った。

表-1 実証区の概要

設置場所	品種	面積(a)	施肥等
大野原町	中国217号	1	無肥料
	ホシアオバ	1	〃
	タカナリ	9	〃
大野原町	中国217号	1	無肥料
	ホシアオバ	1	〃
三野町	中国217号	1	基肥
	ホシアオバ	2	N-12kg/10a

豊中町	中国217号	1	基肥:N-12.5kg/10a 追肥:N-3.2kg/10a
	ホシアバ <sup>®</sup>	7	基肥 N-12.5kg/10a

表-2 生育状況(稈長・穂長)

設置場所	品種	稈長(cm)	穂長(cm)
大野原町	中国217号	72.0	24.4
	ホシアバ <sup>®</sup>	94.4	23.0
	効ナリ	85.3	23.8
大野原町	中国217号	72.3	21.1
	ホシアバ <sup>®</sup>	94.8	22.9
三野町	中国217号	76.4	22.0
	ホシアバ <sup>®</sup>	99.7	19.8
豊中町	中国217号	80.7	21.2
	ホシアバ <sup>®</sup>	99.5	19.8



表-3 収穫物調査(収量・飼料成分)

設置場所	品種	全収重(kg/10a)	粗蛋白質(%)
大野原町	中国217号	784.0	6.6
	ホシアバ <sup>®</sup>	776.6	7.2
	効ナリ	814.4	6.5
大野原町	中国217号	641.4	7.0
	ホシアバ <sup>®</sup>	606.7	6.5
三野町	中国217号	813.0	5.5
	ホシアバ <sup>®</sup>	767.9	5.7
豊中町	中国217号	947.0	5.8
	ホシアバ <sup>®</sup>	901.3	6.3

#### 4 飼料用米(粃利用)栽培のしおり作成

当普及センターでは、展示ほ・実証ほなどの成績を参考に、関係機関等の協力を得て、独自の飼料用米(粃利用)栽培のしおりを作成し、数量払のメリットを最大限活用するよう栽培技術の向上と安定生産の確保を支援した。

#### 5 実証ほの成績検討会の開催

実証ほの成績については、栽培農家を交えた関係機関(市、JA、農業共済など)による検討会を開催し、技術向上を図ったほか、次年度の実証ほ設置への協力を依頼した。

また、農政局や県農業生産流通課から28年度の新制度の周知や交付金の変更点などについても説明した。

### ●普及活動の成果

- 1 実証ほの成績から「中国217号」は、短稈で昨年の天候不良時でも収量が確保できたことから、「ホシアバ」に替わる品種として、検討が可能であることが確認できた。
- 2 未登録品種の実証であったため、育成権者である近畿中国四国農業研究センターとの調整や農政局香川支局の手続きなど、関係機関との連携・協力により、実証ほを設置した。
- 3 また、実証ほの成績などから、県農業生産流通課は、「中国217号」を「ホシアバ」に替わる有望品種とみなし、全県的に推進するための「知事特認」の手続きを進めるなど、県を挙げた動きにつながっている。
- 4 管内の多収性専用品種の平均単収は、10a当り玄米換算で521kgと県下平均の462kgよりも約13%増であることから、実証ほの取り組みなどが農家に評価され、栽培に活かされている結果となった。

### ●今後の普及活動の課題

- 1 「中国217号」は新規導入の品種として有望と思われるが、今年度の実証では適正な施肥量が施用できないなどの課題が残ったため、さらに適正な栽培や施肥技術について検討する必要がある。
- 2 また、飼料用米の交付金は数量払いとなっているため、直播栽培などの省力化や堆肥を有効利用した低コスト生産をさらに進めることが必要となる。

※「本実証に供試した育成系統「中国217号」の種子は、育成系統研究用提供契約により、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構近畿中国四国農業研究センターから提供を受けた。」